

*女性の力に期待！

どこの職場でもまだ男女格差があると思いますが、職員の意識改革、女性職員の登用、についてはどのようにお考えでしょうか。

女性の働く場への参画が進む中、男女雇用機会均等法などにより、働く環境は整ってきましたが、賃金、昇進、人事配置などの面で男女の不平等感は否めません。労働力の流動化や就業形態も様変わりし、少子化、超高齢化、さらには団塊世代の大量退職による人材不足も懸念され、女性の能力の活用は新たな発想や多様性を取り入れることにもなり、重要性が再認識されています。

男女共同参画社会を築きあげていくためには、政治、職場、学校、地域をはじめあらゆる分野で女性が力をつけ、意思決定・方針決定の過程に参画していくことが不可欠です。町においても、職員に男女共同参画の意識がなくては良いまちづくりはできません。職員全体にその意識が浸透し、十分に活かされていくことを望みます。その機運を高めるためにも、男女に関わりなく幅広い業務への人事配置、指導的立場への女性の登用を促進する必要があります。

職員の昇任については試験制をとっており、男女とも同じシステムで上がっていくこととなります。本庁には夫婦で勤務している者も多く結婚を機に辞める状況ではないところを見ると、互いに協力のもと意欲を持っているのかなとも思います。受験はあくまでも本人の意思ですので、こちらからもアプローチはしておりますが、実際に申し込みをした女性職員は少なく、残念な結果でした。今後は是非頑張っ



特集 町長 訪長 問室



一人ひとりが輝いて温かい「まなざし」を持てる三芳町に

そんな願いを込めて、三芳町男女共同参画推進会議は5年前にスタートしました。公募による委員と担当職員が情報誌の発行、「共に生きる女と男のセミナー」、「三芳町男女平等に関する住民意識調査」、他市町村の状況把握などの活動をしてきました。

男女が協力し合って社会や家庭を築いていくのが理想であっても、これは男性の仕事、これは女性の役割などの意識が多く残っており、それが障害になっていることもあります。推進会議では、就任後1年を迎えられた町長に、町政について男女共同参画の視点からどのようにお考えかインタビューしました。たくさんの課題の中から今回、子どもを取り巻く環境が悪化している中で、子育ての多くを担っている女性の悩みや不安を解消するための子育て支援と、職員の意識改革、女性職員の登用、この2点に絞ってお話を伺いました。



<懇談会に参加してひとこと>

1時間という短い時間でしたが、初めてこのような形で町長との懇談会ができて、行政が少し身近に感じたひと時でした。終了後、ちょうど会期中だった議会を傍聴してみましたが、行政側のひな壇には、すべて男性ばかりでした。住民の半数は女性ですし、職員の少なからずは女性なのに幹部に誰もいないのでは、政策立案上問題はないのでしょうか。私たちも政策の中に、男性、女性、高齢者、障がい者、子どもなどあらゆる人たちの視点が配慮されているか、見守っていく必要があることを感じました。

横山八重子



安心して子どもを育てるための環境づくりが重要

公約に子育て支援を掲げていましたが1年経ってどのような状況でしょうか。子育てイコール母親という中で育児の不安、仕事との両立などの悩みがありますが、その対策についてもお聞かせください。

近年、大型開発が進み、若い夫婦と子どもという世帯が増えて、ちょうど昭和40年代から50年代のベッドタウン化されたあの頃に似てきた感じがします。女性も育児をしながら仕事を持つ方が多くなり、仕事と子育ての両立の難しさも顕著になっています。しかし、これは女性だけの問題ではなく、子育てはもちろん、介護、家事労働、地域活動など、男女ともに参画できるよう働き方を見直し、お互いに協力し合うことが何より大切なことだと思います。町も、皆様が安心して子どもを預け、仕事に専念できるよう保育所や学童保育室の充実に努めています。

公約にした、子育てにかかる経済的支援等のために、小学生を対象とした『こども医療費支給制度』を4月より実施しています。また、12月には、子育てについて助ける、ファミリー・サポート・センターを開設しました。事業にご賛同いただいた提供会員の登録も30件を超えています。今後は三芳町が他市町に先駆けて設置した子育て支援センター同様に、皆様のご意見を取り入れながら、地域に根ざした活動ができればと考えています。

子どもたちを地域で見守っていくことは、健全な育成にもつながると考えています。最近、小さい子どもを巻き込む事件も多く憂慮すべき事態ですが、少しでも危険なリスクを解消するため、青色パトロールを登下校時に巡回させるシステムを導入しました。また、主に通学路にあたる家や商店・事業所のご協力をいただき、道路から見える場所に「子ども110番の家」と書かれた丸いステッカーを貼ってもらっています。これは子どもが緊急時に、そこに駆け込める目印となるものですが、子どもたちが一度も会ったことがなく、顔も知らない人の家に飛び込むことができるのだろうか、という心配もあります。できれば、事前に保護者の方と一緒に訪ねて、こういう方のお世話になるという確認をしていくことも大事です。